

民医連総会に参加して

第46期全日本民医連定期総会が開かれました

岐阜健康友の会事務局長 熊崎 辰廣

会場は沖縄県那覇市の「那覇文化芸術劇場なはーと」で、2月22日から24日の開催でした。全県連から605人の代議員（岐阜からは4人）が参加し、三日間にわたって方針論議が行われ、運動方針、決算、予算が採決され、新役員が選出されました。増田会長のあいさつでは、能登半島地震に触れ民医連の復興に向けた支援の取り組みを紹介。また、沖縄ではいのちと人権を踏みこじる現実があり、問われているのは人間の尊厳であり、医療や介護に携わる人たちがケアの視点で社会を変革していくことが大事だと、訴えました。岸本事務局長が運動方針案を提案。ジェンダー平等・ケアの視点で「非戦・人権・くらし」を高く掲げ、平和で



みどり病院 歯科事務長 林 一旗

第46回全日本民医連総会では、参加されていた多くの代議員より「経営の改善」に関する発言がありました。特徴的なのは発言者の職種が事務に限らない事でした。経営結果を数字的に分析するだけではなく、各職種が「自分たちの活動が国に評価されていない（診療・介護報酬点数に反映されていない、または点数が下げられた）事に憤りを感じています。国に対して正当な評価をしてほしいと訴えていきたい」といった決意を語っておられました。一事務幹部として、そういった視点を大事にし、今後につなげていきたいと思えます。

しいのみセンター薬局 課長 浅野 洋子

健康で働きつづけられる職場づくりというのが多く報告されていて、職場をみんなで作り上げていく大切さを学び、分散会最後に「いいあんべえ体操」というストレッチをして分散会での疲れをほぐしたのが良い環境なのだと思います。総会最後のあいさつでは、明日からできることをしていこうという言葉で締めくくられました。今回、岐阜から一緒に参加した人たちや沖縄で出会った他県の方との交流はよい経験となりました。それを原動力に私たちにできることをしていきたいと思えます。

すこやか診療所 心のケア外来医師 遠藤 嶺

分散会のなかで「医師の専門研修修了後の帰任援助の必要性」というテーマで発言しました。私自身の体験として、精神科の専門研修を開始してから現在まで継続して岐阜帰任に向けた課題整理のための会議を年1回定期開催してきたこと、医師帰任後の展開や計画立案の援助を県連・地協単位で丁寧に行うことが医師対策として重要であることを報告しました。同じ分散会では外科医療委員会の活動報告もあり、民医連で社会変革の視点を持った外科医養成の重要性が語られました。医師養成について踏み込んだ議論ができたことは大変有意義でした。

有料老人ホームすこやか 施設長 湯本 純一

2年に1度の方針を確認する「全日本民医連第46回定期総会」に岐阜の代議員として参加させていただきました。介護部門では、全職員で取り組む経営、弱い立場の人に寄り添う民医連らしい管理者の育成、SNSを活用した取り組み報告が全国各地からありました。また、今回の介護報酬の改定では、ヘルパーの報酬が下げられ、さらなる人材不足、経営難となることが予想されます。社会保障として、国の責任であることを明確にし、改悪を許さないための意思統一を行いました。魅力ある職業として、賃金改善はもちろん、働きやすさ、将来性が求められており、全国の仲間とともに発信していきたいと思えます。

「肺活量測定班会」

柏台支部

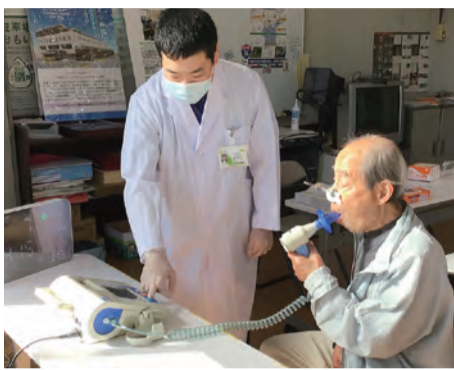
野田 嘉幸

2月8日、みどり病院の検査技師を講師に「肺活量測定」の班会を開催しました。開催前には地域全戸に案内チラシを届け、当日は8名の参加者となりました。

「肺活量測定」班会は、健康友の会の班会では初めてのテーマです。

このテーマで班会を開催しようと思ったのは、「いつでも元気」誌にて健康法の一つとして丹田呼吸法が紹介されたため、コロナ禍で呼吸を考えてみる事も重要と考え、まずは肺活量測定をして自分の肺活量を知ることから始めようと、開催する事になりました。

検査技師さんに肺活量を測定していただき、結果の説明と、日々の軽い運動、散歩などで呼吸筋の低下を予防する事や、禁煙継続で肺の機能低下を抑える事などの説明をしていただきました。



今回の班会では、自分自身の現在の肺活量を知り、呼吸のしかたを再検討する良い機会になりました。柏台公民館は地域住民が集まり易く、気軽に借りることができ、健康友の会の主要な目標は地域まるごと健康づくり!!「だれ一人取り残さない」をモットーに今後も健康班会を続けます。

今回はもう一つ違うテーマでお話を聞きました。大腸がん検診（便潜血2回法）についてです。岐阜健康友の会の会員は、年に1度無料で大腸がん検診を受けられるため、改めて採便のしかたと、なぜ採便するのかという説明を聞きました。大腸がん検診はからだへの負担が少なく痛みもない気軽にできる検査で、がんの早期発見ができる優れた検査です。

暮らしの中のPFAS 2

今回も原田浩二京大准教授の最新刊の著書「これでわかるPFAS汚染」から一部紹介します。今回は化粧品の問題です。普段使われている化粧品の中にもPFASが含まれているケースがあります。化粧崩れを防ぐための撥水作用のあるフルオロアルコールリン酸、パーフルオロアルキルシリル化マイカ等が使われてきました。一度使用されている化粧品の成分表示を確かめてください。「フルオロ」という表示があればPFASが使われている可能性があります。健康リスクはわかっている可能性がありますが、製造段階で問題となっていないPFONAなどが含まれる可能性があります。京大原田研究室では、国内販売されていたフッ素関連

物質が成分表示されていた化粧品15サンプル、日焼け止め9サンプルから、添加成分以外に、化粧品で最大5.9µg（100万分の1）、日焼け止めで最大19µgを検出しています。また最近気になるのは、川魚のPFAS汚染です。東京新聞が原田准教授と共同調査した相模川支流の魚から全国平均の340倍のPFASが検出され、1週間にカワムツの身を8g食べると「健康リスク」が発生すると報告されています（東京新聞1月24日記事）。原田准教授は「PFASの製造規制は進んでいるが、環境中に長く残留するため、過去の汚染がまだ食品に影響を及ぼし続けている。国は危機感を持って対策を進めるべきだ」と訴えています。（熊崎辰廣）

「9条の碑」の建立は改憲を望まない世論を広げています

岐阜健康友の会会長、藍川地域9条の会世話人 大塚 研二

9条を守ろう

国内33番目の「九条の碑」が奄美中央病院に

2023年11月3日に、「憲法9条の碑」に「戦争のない世界を託す」として除幕式を行った北海道室蘭市に続き、鹿児島県奄美市の奄美中央病院前に建てられた「憲法9条の碑」の除幕式が12月1日に行われました。「いつでも元気」2月号の仲間のページ「生き生き活動アラカルト」に、碑は御影石製で表面に9条全文、裏面に憲法前文が書かれていること、平本良英病院長の「私たち医療者は、いのちの守り手として、憲法9条ワクチンで平和を訴えていきたい」という除幕式の挨拶が紹介されています。

34番目は、「百里9条の碑」

茨城県小美玉市の百里平和公園（航空自衛隊百里基地に隣接）に「憲法9条の碑をたてよう」という計画が始まったきっかけは、2021年の憲法記念日のジャーナリスト伊藤千尋さんの講演です。実行委員会を結成し、募金の呼びかけを行い、82団体534人の方々の協力を得ました。2月11日の県内外から550人が集まった除幕式で、実行委員長は、「ウクライナやガザでこの瞬間にも多くの命が戦争によって奪われ続けている。いかなる国際紛争も武力による解決をしてはならない」という憲法前文と9条の精神が、現実の国際政治を動かす力を発揮することを強く期待したい。この日本が、いつか9条を理想とした戦争も軍隊もない国となることを信じたい」と語っています。

11月をめざし、「この地に「9条の碑」を建てよう

私たちの地にも、平和と9条を守り、いのちと健康を守る世論を大きく広げていくために、「9条の碑」を建立しましょう。

岐阜健康友の会
公式LINEをやっています!



登録方法

- ① LINEを開く
- ② ホームを押す
- ③ 友だち追加を押す
- ④ QRコードを押す
- ⑤ 左のQRコードをかざし「追加」を押す
- ⑥ 登録完了!